

第4章 関係資料

1 教育課程表 平成31年度入学生・平成30年度入学生教育課程表

平成31年度教育課程表			熊本県立宇土高等学校 全日制																				
学 科			普通科																				
入学年度			平成30年度入学																				
平成31年度現在の学年(○印)			I		II					III					計								
類型(コース)			高進 生	中進 生	高進 文系	中進 文系	高進 理系	高進 S S	中進 S S	高進 文系	中進 文系	高進 理系	高進 S S	中進 S S	高進 文系	中進 文系	高進 理系	高進 S S	中進 S S				
教科	科目	標準単位																					
国語	国語総合	4	4												4	4	4	4	4	4			
	現代文B	4			2	2				3	2				5	5	4	4	4	4			
	古典B	4			3	2				3	2				6	6	4	4	4	4			
	国語表現	2								2◎						0・2	0・2						
地理 歴史	世界史A	2			2	2									2	2	2	2	2	2			
	世界史B	4													0・4	0・4	0・4	0・4	0・4	0・4			
	日本史A	2			] 2	] 2				] 4	] 4				0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2			
	日本史B	4														0・4	0・4	0・4	0・4	0・4			
	地理A	2													0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2			
	地理B	4													0・4	0・4	0・4	0・4	0・4	0・4			
公民	現代社会	2	2												2	2	2	2	2	2			
	倫理	2													0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2			
	政治・経済	2													0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2			
数学	数学I	3	3													3	3		3				
	数学II	4	1			3	3				3	5				7	6	4	4				
	数学III	5																		6	6		
	数学A	2	2			2	2				2◎	2				2	2		2				
	数学B	2			2	2									2・4	2・4	4	4					
	*探究数学I	5	5																	5		5	
	*探究数学II	6																		6		6	
*探究数学III	7																		7		7		
理科	物理基礎	2	2													2	2		2				
	物理	4																		0・7			
	化学基礎	2	2			3	3									2	2		2				
	化学	4													4	4				7			
	生物基礎	2	2													2	2		2				
	生物	4																		0・7			
	地学基礎	2			2	2									2	3		3					
	*未来科学A	3	3																	3		3	
	*未来科学B	3	3																	3		3	
	*探究科学	6			3	3														7			
	*実践物理基礎	3			1	1									0・3	0・3		0・3					
	*実践化学基礎	3																		0・3			
	*実践生物基礎	3																		0・3			
*実践地学基礎	2																		2				
保健 体育	体育	7~8	3		3	3				2	2				8	8	8	8	8	8			
	保健	2	1		1	1									2	2	2	2	2	2			
芸術	音楽I	2													0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2			
	音楽II	2													0・2	0・2							
	美術I	2	] 2												0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2			
	美術II	2													0・2	0・2							
	書道I	2													0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2			
	書道II	2													0・2	0・2							
外国語	コミュニケーション英語I	3	3	4			4									3	4	3	3	4			
	コミュニケーション英語II	4													4	4	3	3	3				
	コミュニケーション英語III	4													4	4	4	4	4				
	英語表現I	2	2	2			2									2	2	2	2	2			
	英語表現II	4													4	4	4	4	4				
家庭	家庭基礎	2	2												2	2	2	2	2				
情報	社会と情報	2													0・2	0・2							
	情報の科学	2			1	1	1	1	2◎									1	1	1	1	1	
ロジック	*ロジックプログラム	1	1												1	1	1	1	1	1			
	*ロジック探究基礎	1			1	1									1	1	1	3		3			
	*SS課題研究	3																		4		4	
	*GS課題研究	2			1	1				1	1				2	2	2	2		2			
	*SS探究物理	7																		0・7		0・7	
	*SS探究化学	7																		7		7	
	*SS探究生物	7																		7		7	
各学科共通教科計			32		30・32	32	32				32	32				91・93	91・93	93	92	92			
家庭	フードデザイン	2~10													0・2	0・2							
	専門教科計	0		0・2		0				0					0	0	0	0	0	0			
特別活動	ホームルーム活動	1		1		1				1					3	3	3	3	3				
総学	宇土未来探究講座	3~6																					
合計			33		33					33					99								

SS……スーパーサイエンスコース GS……グローバルサイエンス  
 ◎……芸術II・フードデザインから1科目選択 ◎……国語表現・数学B・社会と情報から1科目選択  
 1年次の数学IIの学習は、数学Iの範囲の学習を終了した後に行う。  
 2年次高進理系・SSの数学IIIの学習は、数学IIの範囲の学習を終了した後に行う。  
 1年次中進生の数学I3単位は、SSH教育課程の特例により探究数学Iで代替する。  
 1年次中進生の物理基礎2単位・化学基礎2単位は、SSH教育課程の特例により未来科学Aで代替する。  
 1年次中進生の生物基礎2単位・地学基礎2単位は、SSH教育課程の特例により未来科学Bで代替する。  
 2年次SSコースの情報の科学1単位は、SSH教育課程の特例によりSS課題研究で代替する。  
 2年次高進文系・高進理系・中進文系の情報の科学1単位は、SSH教育課程の特例によりロジック探究基礎で代替する。

平成 29 年度入学生教育課程表

平成31年度教育課程表			熊本県立宇土高等学校 全日制																	
学 科			普通科																	
入学年度			平成29年度入学																	
平成31年度現在の学年(○印)			I		II					III					計					
類型(コース)			高進 生	中進 生	高進 文系	中進 文系	高進 理系	高進 SS	中進 SS	高進 文系	中進 文系	高進 理系	高進 SS	中進 SS	高進 文系	中進 文系	高進 理系	高進 SS	中進 SS	
教科	科目	標準単位																		
国語	国語総合	4	4							2◎				4	4	4	4	4	4	
	国語表現	2												0・2	0・2					
	現代文B	4			2		2			3		2		5	5	4	4	4	4	
	古典B	4			3		2			3		2		6	6	4	4	4	4	
地理 歴史	世界史A	2			2		2							2	2	2	2	2	2	
	世界史B	4												0・4	0・4	0・4	0・4	0・4	0・4	
	日本史A	2			┌	┐	┌	┐	┌	┐	┌	┐	┌	┐	┌	┐	┌	┐	┌	┐
	日本史B	4			└	┘	└	┘	└	┘	└	┘	└	┘	└	┘	└	┘	└	┘
	地理A	2			┌	┐	┌	┐	┌	┐	┌	┐	┌	┐	┌	┐	┌	┐	┌	┐
	地理B	4			└	┘	└	┘	└	┘	└	┘	└	┘	└	┘	└	┘	└	┘
公民	現代社会	2	2											2	2	2	2	2	2	
	倫理	2							2					2	2	0・2	0・2	0・2	0・2	
	政治・経済	2							2					2	2	0・2	0・2	0・2	0・2	
数学	数学Ⅰ	3	3											3		3	3			
	数学Ⅱ	4	1		3	3			3					7	6	4	4			
	数学Ⅲ	5				1					5					6	6			
	数学A	2	2											2		2	2			
	数学B	2			2	2			2◎		2			2・4	2・4	4	4			
	*探究数学Ⅰ	5		5												5			5	
	*探究数学Ⅱ	6						6											6	
	*探究数学Ⅲ	7											7						7	
理科	物理基礎	2	2											2			2	2		
	物理	4														0・7	0・7	0・7	0・7	
	化学基礎	2	2											2		2	2			
	化学	4				3		3			4		4	4		7	7	7	7	
	生物基礎	2	2											2		2	2			
	生物	4														0・7	0・7	0・7	0・7	
	地学基礎	2			2									2					0・7	
	地学	4																	3	
	*未来科学A	3		3												3			3	
	*未来科学B	3		3												3			3	
	*探究科学	7				3				4						7				
	*実践化学基礎	2								2				0・2						
	*実践生物基礎	3			1					2				3						
*実践地学基礎	2								2				0・2							
保健 体育	体育	7~8	3		3	3			2		2			8	8	8	8	8	8	
	保健	2	1		1	1								2	2	2	2	2	2	
芸術	音楽Ⅰ	2												0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	
	音楽Ⅱ	2												0・2	0・2					
	美術Ⅰ	2		2										0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	
	美術Ⅱ	2												0・2	0・2					
	書道Ⅰ	2												0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	
	書道Ⅱ	2												0・2	0・2					
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	3	3	4										3	4	3	3	4	4	
	コミュニケーション英語Ⅱ	4			4	3								4	4	3	3	3	3	
	コミュニケーション英語Ⅲ	4							4		4			4	4	4	4	4	4	
	英語表現Ⅰ	2	2	2										2	2	2	2	2	2	
	英語表現Ⅱ	4			2	2			2		2			4	4	4	4	4	4	
家庭	家庭基礎	2	2											2	2	2	2	2	2	
情報	社会と情報	2							2◎					0・2	0・2					
	情報の科学	2			2	2	1	1						2	2	2	1	1	1	
各学科共通教科計			31		29・31	31	30		31		31			91・93	91・93	93	92	92	92	
家庭	フードデザイン	2~10			2◎									0・2	0・2					
専門教科計			0		0・2	0			0		0			0・2	0・2	0	0	0	0	
特別活動	ホームルーム活動		1		1		1		1		1			3	3	3	3	3	3	
総学	宇土未来探究講座	3~6	1		1	1	2	2	1		1			3	3	3	4	4	4	
合計			33		33					33					99					

SS・・・スーパーサイエンスコース  
 ◎・・・芸術Ⅱ・フードデザインから1科目選択 ◎・・・国語表現・数学B・社会と情報から1科目選択  
 1年次の数学Ⅱの学習は、数学Ⅰの範囲の学習を終了した後に進行。  
 2年次高進理系・SSの数学Ⅲの学習は、数学Ⅱの範囲の学習を終了した後に進行。  
 1年次中進生の数学Ⅰ3単位は、SSH教育課程の特例により探究数学Ⅰで代替する。  
 1年次中進生の物理基礎2単位・化学基礎2単位は、SSH教育課程の特例により未来科学Aで代替する。  
 1年次中進生の生物基礎2単位・地学基礎2単位は、SSH教育課程の特例により未来科学Bで代替する。  
 2年次SSコースの情報の科学1単位は、SSH教育課程の特例により宇土未来探究講座で代替する。

## 2 運営指導委員会の記録

### (1)第二期・第3回運営指導委員会

期日 令和元年9月6日(金)

会場 熊本県立宇土高等学校校長室

内容 開会挨拶 [那須高久課長]

校長挨拶 [福田朋昭校長]

概要説明 [後藤裕市研究主任]

研究協議

閉会挨拶 [那須高久課長]

出席 運営指導委員, 教育委員会, 本校職員 19名

[運営指導委員]

松添 直隆	熊本県立大学 環境共生学部長 委員長
元松 茂樹	宇土市長
斉藤 貴志	名古屋市立大学大学院医学研究科 教授
松尾 和子	熊本県立教育センター教科研修部理科研修室長

[県教育委員会]

那須 高久	熊本県教育庁 高校教育課 課長
今村 清寿	熊本県教育庁 高校教育課 指導主事

#### 研究協議

「SSH事業の効果・成果を大学・近隣学校・地域等にどのように伝えるか」

- ◆各所属の立場でどのようなニーズが宇土SSHにあるか
- ◆成果の普及をいかにはかっていくべきか

- ・成果はこれまでにかなり出ている。地域との関係を深めるという話題は以前から出ている。今回、結論を出すということではなく、幅広く意見を出していただきたい。(松添委員長)
- ・在校生にどれぐらい満足度があるかが重要なポイント。地元中学生が熊本市内流出する状況。小学生には中高一貫は魅力的だが、受検する中学生、特に、宇土中受検で不合格生徒は宇土高を選択しない。SSHだけでなく、総合的に宇土高の良さを発信すべき。(元松委員)
- ・概要説明から先生・生徒への大きな負荷を感じる。教育行政の方針に振り回されないようSSHの目的がリーダー育成か、ボトムアップか確認が必要。宇土高に進学してもSSHの恩恵を受けるのは一部という声もある。小中学生にとって保護者の存在は大きい。アウトリーチの方法も検討の必要がある。(斉藤委員)
- ・熊本市内の生徒の目が宇土校に向くよう教育センター主催の体験イベント等、仕掛けを検討。宇土高での積極的な授業改革も支援する必要性も感じている。宇土中にはどのような理由で志願者が集まるのか。(松尾委員)
- ・先取り学習など学習面の充実、体験活動の充実の2点。(相原副校長)
- ・宇土中生の満足度は高い。高進生の満足度がおそらく高くないのは、中進生に高進生が入り込めないのではないかと。(元松委員)

- ・県高校魅力化アンケートでは、本校入学してよかったと回答した生徒、1年75%、2年65%、3年55%と、10%ずつ減少。(奥田教務主任)
- ・中高一貫の特性、特に生徒の印象の把握が必要だ。宇土高SSHはリーダー育成とボトムアップのどちらに重点を置くのか。(松添委員長)
- ・指定当初、トップ層は科学部の少数、徐々に牽引される形でリーダー層が増加。学会発表や海外研修の経験生徒は60人程度。成果・効果の波及と次期学習指導要領「探究」の推進を同期させ、全体に波及させることに負荷やストレスを感じる生徒もいる。(後藤研究主任)
- ・本校はSSH指定当初から全校体制で取組を推進。シナジー効果で積極的に取り組む生徒も増加。得られた成果を授業に取り入れる段階まで推進できている。(福田校長)
- ・成果の普及について意見を。(松添委員長)
- ・メディアやネットを含め、受け手が受け止められなければ自己満足で終わる。ターゲットを明確にし、見合った流し方を。(斉藤委員)
- ・成果が指すものは、SSH関連の個々の研究成果だけでは多方面へのアピールにならない。SSH導入前後で何が大きく変容したかを整理して訴えねば伝わらない。ある分野の学力が伸びたなど具体的な成果はないか。(元松委員)
- ・生徒の授業評価では、授業への満足度は90%を超える。その根底にあるのは探究型授業。宇土高に入学すると、授業がわかる、授業が楽しいをもっとアピールしたい。(馬場副校長)
- ・授業満足度は在校生に対する成果として整理したい。高校での学びが卒業後どう生かされているのかも調査したい。(松添委員長)
- ・指定7年間で生徒が最も変わったのは学ぶ姿勢。受動的で答えを待ち、覚える姿勢から能動的に自ら考える姿勢に変容してきたのは劇的な変化。この変容は発信が難しく、トピックスに発信が偏るのがジレンマ。(後藤研究主任)
- ・ミネルバ大学に進学した生徒も変容した生徒の一人。保育士志望から先輩の姿に影響され、SSコースで活躍。(梶尾研究開発部長)
- ・ターゲットに加え、普及のルートの検討が必要。直接、第三者では印象も異なる。授業が楽しければ学校も楽しくなる。入学満足度と授業満足度が乖離しているが、徐々に入学満足度もシフトするのでは。宇土高の授業実践は先進的。県下への普及には教育センターや高校教育課が支援していく。(松尾委員)

- ・宇土高は7年間のSSHの取組で多くの成果を上げている。大学進学や海外での活動、研究発表、生徒の学びがしっかりしてきたことも確認できた。他の先生が学ぶ場として見た時の宇土高はどうか。(松添委員長)
- ・他校職員や管理機関としても貴重。現に視察や訪問職員が多い。(今村指導主事)
- ・探究型学習について、かなりの蓄積、学校訪問も多い。質問の内容は。(松尾委員)
- ・全校体制やトップ育成など探究活動。探究型授業へ転換した経緯の2点。(後藤研究主任)
- ・探究型授業と進学実績の可視化を。成果に結びつくよう努力が必要だ。(元松委員)
- ・授業満足度は高いのに学校満足度が低いのは他の要因があるのでは。成績等が思わしくなく、描いた未来との乖離を感じているのでは。SSHの評価と直接関係ないのでは。(斉藤委員)
- ・入試も変わりつつある。大学もSSHで育成した生徒を大事にすべき。連続性が大事。統計的に生徒満足度の測定と分析を。(松添座長)

(2)第二期・第4回運営指導委員会

期日 令和2年2月26日(水)中止

\*新型コロナウイルス感染症対策のため中止とし、概要説明資料及び令和元年度SSH生徒意識調査アンケートに関する各委員からの指導助言を集約後、委員長から指導助言を受けた。

[運営指導委員]

松添 直隆	熊本県立大学 環境共生学部長 委員長
元松 茂樹	宇土市長
宇佐川 毅	熊本大学 工学部長
片山 拓朗	崇城大学 工学部長
佐藤 勇治	熊本学園大学外国語学部英米学科 教授
斉藤 貴志	名古屋市立大学大学院医学研究科 教授
松尾 和子	熊本県立教育センター教科研修部理科研修室長

研究協議題

「本年度の取組の総括と評価」と「生徒の満足度の測定と分析」  
◆大学・研究機関・行政等がどのように市民や団体にわかりやすく評価を発信しているか

概要説明資料について

- ・新型コロナウイルス感染症の影響は先進的取組を進める学校ほど大きい。海外・学会参加等エネルギーを別方法・機会に昇華するなど中長期的に検討する必要がある。(松添委員長)
- ・LOGICをkey competenciesとした「問い」を創る活動は、Science以外の分野でも応用でき、能動的学習に直結する。(宇佐川委員)
- ・生徒のモチベーションの二極化・多極化が生じている。この二極化にどう対応するかが、持続的活動の展開の要諦になる。(宇佐川委員)
- ・トップ支援型か、ボトムアップ型か、体制的

- な目的によっても解釈が変わる。トップ支援型は、その恩恵に与れない学生からの不満が増える一方、ボトムアップに力を取られ過ぎると、トップの育成が伸び悩む。その両方を達成するには、相応の体制作りが必要となり、一部の教員でなく、トップ支援担当とボトムアップ支援担当は別々に必要だ。(斉藤委員)
- ・コラボ授業は有効。歴史建造物の構造とそこに潜む物理学や、古典と英語や数学などの視点で紐解くなど、興味を惹き、理解するのが理想。世の中が細分化され、専門性も極狭いものに限定されつつある。柔軟に他分野に興味を持たせるには、受け手の裾野の広さが重要。きっかけは、文理融合にある。(斉藤委員)
- ・第一期以来、創意工夫を重ね、素晴らしい教育課程と指導法を考案され実践した成果をもとに、第二期では一歩進んだ探究活動の実践教育に取り組んでいる。SS対象者のみならず、全生徒の科学する心を育て・方法論を教え、成果を社会に発信する一連の教育のなかで、学問に関心を持ち意欲を持って社会の諸問題に挑戦する生徒が育っている。(佐藤委員)
- ・優秀な技術者と研究者の育成は大切だが、その基礎として全人教育は大切だ。科学する心と方法論的修練と成果の社会還元のために、あえて論理も順序も無視した、人間の複雑な存在を自由に想像する力も大切。全教科を横断する学際的指導はとても有意義。人間とは?社会とは?自然とは?と根源的な問いを行い、自由な発想で物事に対峙し考察、表現する力の育成にも目を向けた指導を。(佐藤委員)

JST全国SSH意識調査報告書(H31.3)について

- ・卒業生の回収率20%が気になる。満足度70%の高さはSSHの有用感が高い母集団からの回答である可能性が否定できない。(宇佐川委員)
- ・教員80%、卒業生70%と高い有用感で、乖離が小さいのは重要。一方、「効果がなかった」割合で、卒業生と教員に大きな乖離がある。自己肯定が難しいことを考慮すると、教員の客観的評価として、生徒が気づかないまま能力が高まったと捉えても良いかも。(斉藤委員)
- ・在校生の結果について、不有用感25%が高いと捉えるか低いと捉えるか。推移を追わなければ評価は難しい。毎年、卒業後は、「SSHをやった良かった!」と思え、在校時は「やらされてる感」が高いのかを検証が必要。「やらされてる」と感じている生徒に、どう対応していくかが今後の課題。一方、「やって良かった!」の真の価値は、長期的に、10年、20年の視点で評価することも重要だ。(斉藤委員)
- ・全体的な肯定的回答の傾向について、教員が高く、在校生は低い。在校生の否定的回答が多い背景は自己評価の影響だ。(松尾委員)

- ・成果を発表し伝える力について、教員と在校生の認識の差が最も大きい。在校生の発表の場面や回数等の個人差の影響だ。国際性についても、在校生の否定的回答が多く、教員との認識の差があるのは機会の差だ。(松尾委員)

#### 本校・SSH 生徒意識調査アンケートについて

- ・量的調査と質的調査の両方が重要。全体把握は量的調査。SSH 指定後の突出した成果、生徒に着目した質的調査する価値がある。指定前でも素養ある生徒はいたはず。(松添委員長)
- ・学会、国際発表する生徒の育成が宇土はできる。鍵となる教員を一定数、集中させないと影響は減少する。探究の専門家は存在しない。生徒の頑張りに対して教員が成長、変容できる教員の学び、環境が重要だ。(松添委員長)
- ・数学について、学年・SS, GS のいずれでも、成績の肯定感や日常生活への応用、職業での有用感が低下するのは数学が日常生活とつながりにくい状況を反映か。数学を意識的に学ぶ時間増加は評価できるが、“進学のため”という色彩が強い。高校生、保護者には最重要だとは理解できるが、活動自体が“進学の道具”にならない工夫も必要。(宇佐川委員)
- ・「留学」や「グローバルな課題発見や解決」の意識が高学年ほど高い、大学教員の指導など高次教育に触れる効果が認められることから、「意識を外へ向けること」は成功している。一方、意識を外へ向けることで、内部とのギャップを感じているのでは。全国調査と同様、一定数は「やらされている」「上位で頑張る生徒への羨み」も垣間見える。自身の頑張りにも光が当たらない不満ともいえる。いかに「自分がやっているんだ！」と思わせ、意識を高めるかが今後の課題。他者へアピール、他者の評価をいかに得るかという課題解決の一策としてアウトリーチは重要になる。(齊藤委員)
- ・「理数教育の充実」「理数系学部への進学」「技術者・研究者への意欲」「宇土高 SSH への誇り」の設問に着目。SSH の目的は社会をリードする将来の技術者や研究者の育成にある。指導前後で、必ずしも理数系に進学し、技術者・研究者を志す生徒の増加が明確でない。SS コース、特に3年で「そう思う」の回答が理想だが、そうでない理由の考察が必要。人を動かす力は「心のエネルギー」。SSH に参加して良かったと感じるかが大切。(佐藤委員)
- ・高進 SS コース人数比増加の要因は(松尾委員)
- ・第1期1年次からの継続調査データについて、過去との比較や変遷、顕著な変化がある項目や全体的に数値が低い項目など、焦点化、定点観測、追跡調査なども示すと良い(松尾委員)
- ・1年 GS で「理数教育が充実している」の肯定的回答低下は、理科好き・数学好きの肯定

的回答低下と連動している。「英語教育が充実している」の肯定的回答低下に対し、「英語が好き」の肯定的回答が変動していないのは、英語を学びたい意欲の表れだ。(松尾委員)

- ・SS コースで学年が進行するほど「探究型授業が充実している」の肯定的回答増加と「宇土高校 SSH を誇りに思う」ことは関連している。生徒が充実感、達成感を得ることは自信につながり、宇土高校での学びの満足度につながっている。1年 GS での低下は、目新しさと慣れが要因の一つだが、1年 SS との差は教育課程、授業展開によるものか。(松尾委員)
- ・ロジックガイドブックの有用性は2年 SS、GS ともに否定的回答の生徒へのアプローチが必要と考える。ロジックガイドブックの更なる活用を検討してはどうか。(松尾委員)
- ・他の SSH 指定校の研究を調べた経験は、学年進行で数値が上昇している。何を目的に調べたのか興味深い。SSH について家族・友人を話す機会の増加は1年 SS の上昇は顕著。実際の取組が具体的だからこその上昇。2年 SS の上昇と1年 GS の上昇は意味が異なる。宇土高校 SSH を誇りに思う2年 SS は肯定的回答77%と維持に対し、1年 GS は否定的回答が上昇、肯定的回答が42%と低い。(松尾委員)

#### 大学・研究機関・行政等がどのように市民や団体にわかりやすく評価を発信しているか

- ・理化学研究所では、科学週間に一般公開実施。毎年1万名程度が見学。特に体験型展示は人気。自身の研究を「分かりやすく」「一般の方目線」で話す難しさと、受け入れの達成感には自信に繋がる。サイエンスカフェなど発表を持ち回りで行う、成果をまとめた冊子配布など、一般の方に活動を知ってもらい、理解させ、魅力的に発信することも重要。サイエンスコミュニケーターが参入し、アウトリーチを考えるのも一定の効果がある。(齊藤委員)
- ・保護者にとっても、ある生徒にばかりスポットがあたるのではなく、「自分の子供がどのような役割を持って貢献しているのか」を知ることによって不満は減少・解消する。(齊藤委員)
- ・SNS 発信は重要だが、見る側の立場にたった発信を行うことが重要。「宇土高凄いいい」という発信だけでは見てくれない。保護者向け、生徒やより低学年向け、一般向けなど、コンテンツをそれぞれに対して設定しないと、受信者は継続して見てくれない。(齊藤委員)
- ・SSH の成果を多様な世代や職業の人が触れられるよう HP での公開、一般市民と生徒が触れ合い SSH を知る機会を設定。近隣学校訪問、コミュニティーセンター、ショッピングモールで成果を発表することで社会認知と理解を深め、成果を社会と共有する。(佐藤委員)

